

Japanese
The Holy Spirit In Every Age
TCA-139HOL

聖霊は全ての時代に 存在する



ウィリアム・マリオン・ブラハム



Japanese
The Holy Spirit In Every Age
TCA-139HOL

聖霊は全ての時代に 存在する



ウィリアム・マリオン・ブラハム



はじめに

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

www.messagehub.info

はじめに

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

www.messagehub.info

聖霊は全ての時代に存在する

すべての時代における聖霊のはたらき

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」

(黙示録 2:11)

上の言葉は、どの教会時代にも語られました。どの時代にも、同じ忠告です。「耳のある者は御霊の言われることを聞きなさい。」しかし、すべての人が、別の教会時代に霊の語られる言葉を聞くのは実際は不可能です。

「しかし私たちは、聖人の間で、知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです。この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟

聖霊は全ての時代に存在する

すべての時代における聖霊のはたらき

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」

(黙示録 2:11)

上の言葉は、どの教会時代にも語られました。どの時代にも、同じ忠告です。「耳のある者は御霊の言われることを聞きなさい。」しかし、すべての人が、別の教会時代に霊の語られる言葉を聞くのは実際は不可能です。

「しかし私たちは、聖人の間で、知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです。この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟

りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

まさしく、聖書に書いてあるとおりです。

『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。』

神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。

いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。

ところで、私たちは、この世の霊を受

しませる理由は、みことばから離れることです。神の好意を得るための方法はただ一つ、みことばに立ちもどることです。

エフェソの時代もこの時代も、そしてすべての時代をとおして、これが事実であることがわかります。そして最後の時代、それはわたしたちの時代ですが、みことばが消えかかっています。異邦人から完全にみことばが消えてしまうと、大艱難がやってきます。もしあなたが真の子孫なら、もしあなたが正真正銘の聖霊のバプテスマを受けたなら、日常の糧にも増して神のことばの必要を感じることでしょう。そして神の口から発するすべてのことばに信頼をおいて生きていきたいと望むことでしょう。これがわたしの切実な祈りです。どうぞ、わたしたちがこんにち生きるのに必要なことばを、聖霊をとおして聞くことができますように。

りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

まさしく、聖書に書いてあるとおりです。

『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。』

神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。

いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。

ところで、私たちは、この世の霊を受

しませる理由は、みことばから離れることです。神の好意を得るための方法はただ一つ、みことばに立ちもどることです。

エフェソの時代もこの時代も、そしてすべての時代をとおして、これが事実であることがわかります。そして最後の時代、それはわたしたちの時代ですが、みことばが消えかかっています。異邦人から完全にみことばが消えてしまうと、大艱難がやってきます。もしあなたが真の子孫なら、もしあなたが正真正銘の聖霊のバプテスマを受けたなら、日常の糧にも増して神のことばの必要を感じることでしょう。そして神の口から発するすべてのことばに信頼をおいて生きていきたいと望むことでしょう。これがわたしの切実な祈りです。どうぞ、わたしたちがこんにち生きるのに必要なことばを、聖霊をとおして聞くことができますように。

注意して、使者を通して語られた神の声を聞かなければならないことでしょう。そして忠実にそれを教会に語るなければならぬことでしょう。

これで、わたしが原理主義やペンテコステ派の教えに賛同しない理由がわかっていただけたでしょうか。わたしには主が明らかにしてくださったみことばを守る義務があります。すべてをここで分かち合うことはできません。それをしたら、本一冊分になってしまいます。しかし主の助けによって多くの集会やテープやメッセージでこれらのことを教え、すべての聖書と照合して、あなたがたに納得して理解してほしいと思います。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」すべての時代にこの同じ呼びかけがあります。御霊が言われることを聞きなさい。あなたがクリスチャンなら、御霊の教えに戻りなさい。それはこの時代に与えられているみことばです。各時代の各使者がみことばを伝えました。人々がその時代のみことばに立ちもどると、新しい真のリバイバルが起こることでしょう。すべての時代に対する呼びかけは、お叱りのことばです。「あなたがたは神のことばから離れてしまった。悔い改めてみことばに立ちかえりなさい。」聖書の初めの書(創世記)から終わりの書(黙示録)まで、ただ一つ、神を悲

注意して、使者を通して語られた神の声を聞かなければならないことでしょう。そして忠実にそれを教会に語るなければならぬことでしょう。

これで、わたしが原理主義やペンテコステ派の教えに賛同しない理由がわかっていただけたでしょうか。わたしには主が明らかにしてくださったみことばを守る義務があります。すべてをここで分かち合うことはできません。それをしたら、本一冊分になってしまいます。しかし主の助けによって多くの集会やテープやメッセージでこれらのことを教え、すべての聖書と照合して、あなたがたに納得して理解してほしいと思います。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」すべての時代にこの同じ呼びかけがあります。御霊が言われることを聞きなさい。あなたがクリスチャンなら、御霊の教えに戻りなさい。それはこの時代に与えられているみことばです。各時代の各使者がみことばを伝えました。人々がその時代のみことばに立ちもどると、新しい真のリバイバルが起こることでしょう。すべての時代に対する呼びかけは、お叱りのことばです。「あなたがたは神のことばから離れてしまった。悔い改めてみことばに立ちかえりなさい。」聖書の初めの書(創世記)から終わりの書(黙示録)まで、ただ一つ、神を悲

けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。

この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。

その御霊のことばを持って御霊のことを解くのです。生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです

。御霊を受けている人は、すべてのことをわかまえますが、自分は何れによってもわかまえられません。いったい、『それが主のみこころを知り、主を導くことができたか。』ところが、私たちには、キリストの心があるのです。」

(1コリント 2:6-16)

けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。

この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。

その御霊のことばを持って御霊のことを解くのです。生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです

。御霊を受けている人は、すべてのことをわかまえますが、自分は何れによってもわかまえられません。いったい、『それが主のみこころを知り、主を導くことができたか。』ところが、私たちには、キリストの心があるのです。」

(1コリント 2:6-16)

「わたしが彼らにたとえて話すのは、
彼らは見てはいるが見ず、

聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないから
です。

こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上にも実現した
のです。

『あなたがたは確かに聞きはするが、
決して悟らない。確かに見てはいるが、
決してわからない。この民の心は鈍くな
り、その耳は遠く、目はつぶっているから
である。それは、彼らとその目で見、その
耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わ
たしにいやされることのないためであ
る。』

しかし、あなたがたの目は見ているから
幸いです。また、あなたがたの耳は聞
いているから幸いです。」

(マタイ13:13-16)

「イエスは言われた。

「わたしが彼らにたとえて話すのは、
彼らは見てはいるが見ず、

聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないから
です。

こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上にも実現した
のです。

『あなたがたは確かに聞きはするが、
決して悟らない。確かに見てはいるが、
決してわからない。この民の心は鈍くな
り、その耳は遠く、目はつぶっているから
である。それは、彼らとその目で見、その
耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わ
たしにいやされることのないためであ
る。』

しかし、あなたがたの目は見ているから
幸いです。また、あなたがたの耳は聞
いているから幸いです。」

(マタイ13:13-16)

「イエスは言われた。

た人たちは、必ずしも使者が語ったことだけを語ること
の重要性を学んでいません。パウロは、彼が語ったこと
だけを語るようにと、警告しました。

「自分を預言者、あるいは、御霊の人
と思う者は、私があなたがたに書くこと
が主の命令であることを認めなさい。」

(1コリント 14:37)

「神のことばは、あなたがたのところ
から出たのでしょうか。あるいはまた、あ
なたがたにだけ伝わったのでしょうか。」

(1コリント 14:36)

彼らは受け取ったことばにひと言加え、ひと言抜き
取ります。そうすることでメッセージは純粹でなくなり、リ
バイバルは終了します。どんなに注意を払ってひとつ
の声を聞かなければならないことでしょう。御霊にはひ
とつの声しかないからです。それは神の声です。パウロ
は彼が言ったとおりに言うようにと、教会の人々に警告
しました。ペトロも同じです。ペトロは、彼(パウロ)でさえ
も、受けた啓示のひと文字も変えることができなかつた
と言って、人々に警告しています。どれほど心を尽くして

た人たちは、必ずしも使者が語ったことだけを語ること
の重要性を学んでいません。パウロは、彼が語ったこと
だけを語るようにと、警告しました。

「自分を預言者、あるいは、御霊の人
と思う者は、私があなたがたに書くこと
が主の命令であることを認めなさい。」

(1コリント 14:37)

「神のことばは、あなたがたのところ
から出たのでしょうか。あるいはまた、あ
なたがたにだけ伝わったのでしょうか。」

(1コリント 14:36)

彼らは受け取ったことばにひと言加え、ひと言抜き
取ります。そうすることでメッセージは純粹でなくなり、リ
バイバルは終了します。どんなに注意を払ってひとつ
の声を聞かなければならないことでしょう。御霊にはひ
とつの声しかないからです。それは神の声です。パウロ
は彼が言ったとおりに言うようにと、教会の人々に警告
しました。ペトロも同じです。ペトロは、彼(パウロ)でさえ
も、受けた啓示のひと文字も変えることができなかつた
と言って、人々に警告しています。どれほど心を尽くして

メッセージは伝達され拡散します。それは何らかの方法で、なにがしかの基準にあったグループだけに個々に受け取られます。使者を通して霊が語ることを聞く耳を持っているのは、そのグループの各個人です。聞く耳を持っているものは、個人的啓示にしてしまったり、グループ独自の啓示にしてしまうのではなく、各人が、教会の使者が神から授かったみことばそのものを受け取るのです。

神のみ手により、パウロがこの形式を作ったと言ったらおかしいでしょうか。パウロだけが彼の時代の啓示を余すところなく受けていました。他の弟子たちが、パウロは異邦人のための預言的メッセンジャーであると認めたことから、それを立証することができます。聖書に記された具体的な事例によると、パウロはアジア州に行きたいと望んでいましたが、神がそれを禁じました。理由は、マケドニアには神の羊がいて、彼ら(マケドニア人)はパウロを通して聖霊が語ることを聞く準備ができていたが、アジア州の人々は聞かないということでした。

どの時代にも、同じことが繰り返されています。ある地域で、神に遣わされた使者を通して、光が輝き出ます。その使者から光が拡散して、忠実に教えを受ける人たちのミニストリーに光があたります。しかし、光を受け

メッセージは伝達され拡散します。それは何らかの方法で、なにがしかの基準にあったグループだけに個々に受け取られます。使者を通して霊が語ることを聞く耳を持っているのは、そのグループの各個人です。聞く耳を持っているものは、個人的啓示にしてしまったり、グループ独自の啓示にしてしまうのではなく、各人が、教会の使者が神から授かったみことばそのものを受け取るのです。

神のみ手により、パウロがこの形式を作ったと言ったらおかしいでしょうか。パウロだけが彼の時代の啓示を余すところなく受けていました。他の弟子たちが、パウロは異邦人のための預言的メッセンジャーであると認めたことから、それを立証することができます。聖書に記された具体的な事例によると、パウロはアジア州に行きたいと望んでいましたが、神がそれを禁じました。理由は、マケドニアには神の羊がいて、彼ら(マケドニア人)はパウロを通して聖霊が語ることを聞く準備ができていたが、アジア州の人々は聞かないということでした。

どの時代にも、同じことが繰り返されています。ある地域で、神に遣わされた使者を通して、光が輝き出ます。その使者から光が拡散して、忠実に教えを受ける人たちのミニストリーに光があたります。しかし、光を受け

『神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずで。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょうか。それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。』

(ヨハネ 8:42-44)

これらの聖書箇所から、だれも自分自身の能力で、神のことばを聞くことができないことがわかります。その能力は神から与えられるのです。

『神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずで。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょうか。それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。』

(ヨハネ 8:42-44)

これらの聖書箇所から、だれも自分自身の能力で、神のことばを聞くことができないことがわかります。その能力は神から与えられるのです。

「するとイエスは、彼に答えて言われた。

『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。』

このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。』」

(マタイ 16:17)

以上の聖書箇所をまとめると、唯一の特別なグループの人びとが各時代に存在して、神の霊を聞き分けることができることがわかります。唯一の特別なグループが、各時代に与えられた啓示を受け取ります。そのグループは神からのものです。ヨハネ 8:42-44 によれば、神からのものでなければ神のこぼを受け入れることができないからです。神の霊が語られることを聞き、啓示を受け取るグループは、1コリント 2:6-16 に記されている人たちです。彼らは神の霊を受け、神から生まれた人たちです。洗礼を受け、聖霊によって、主イエスキリストのからだになった人たちです。聖霊のバプテスマを受けた人たちです。

これまで語って来たことと、聖書のこぼを心に留

「するとイエスは、彼に答えて言われた。

『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。』

このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。』」

(マタイ 16:17)

以上の聖書箇所をまとめると、唯一の特別なグループの人びとが各時代に存在して、神の霊を聞き分けることができることがわかります。唯一の特別なグループが、各時代に与えられた啓示を受け取ります。そのグループは神からのものです。ヨハネ 8:42-44 によれば、神からのものでなければ神のこぼを受け入れることができないからです。神の霊が語られることを聞き、啓示を受け取るグループは、1コリント 2:6-16 に記されている人たちです。彼らは神の霊を受け、神から生まれた人たちです。洗礼を受け、聖霊によって、主イエスキリストのからだになった人たちです。聖霊のバプテスマを受けた人たちです。

これまで語って来たことと、聖書のこぼを心に留

た。イエスはこのようにして満たしを受けたあと、約束されていた力が備わり、神から示されたことを余すところなくすべて受け、あかししました。聖霊降臨のときとそれ以降、聖霊が信者に与えられる過程もこれと同じです。

神の子供達は主の声を聴く

聖霊のバプテスマを受けた真の証拠は、現時代に啓示されていることばを信じて、それに従って生きるようになることです。もっとはっきりお話ししましょう。

黙示録2-3章の七つの教会時代は、異邦人の時代をさします。この七つの教会時代が、異邦人に割り当てられている神の救いの期間です。どの時代にも、始まりとおしまいに、必ず言づてが記されています。「(エフェソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤ)にある教会の御使いに書き送れ、」「耳のある者(単数形)は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」イエスが(霊によって)各時代のひとりの人に向かってご自身を証しているのです。ひとつの時代にひとりの人が、その時代に必要なみことばを聖霊から受け取りました。教会の使者(単数)は、真の教会に遣わされた使者です。彼は神から啓示されたことを教会(真のぶどうと偽のぶどう両方)に伝えます。その

た。イエスはこのようにして満たしを受けたあと、約束されていた力が備わり、神から示されたことを余すところなくすべて受け、あかししました。聖霊降臨のときとそれ以降、聖霊が信者に与えられる過程もこれと同じです。

神の子供達は主の声を聴く

聖霊のバプテスマを受けた真の証拠は、現時代に啓示されていることばを信じて、それに従って生きるようになることです。もっとはっきりお話ししましょう。

黙示録2-3章の七つの教会時代は、異邦人の時代をさします。この七つの教会時代が、異邦人に割り当てられている神の救いの期間です。どの時代にも、始まりとおしまいに、必ず言づてが記されています。「(エフェソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤ)にある教会の御使いに書き送れ、」「耳のある者(単数形)は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」イエスが(霊によって)各時代のひとりの人に向かってご自身を証しているのです。ひとつの時代にひとりの人が、その時代に必要なみことばを聖霊から受け取りました。教会の使者(単数)は、真の教会に遣わされた使者です。彼は神から啓示されたことを教会(真のぶどうと偽のぶどう両方)に伝えます。その

んだ。」

(ローマ 9:13)

その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪もおこなわないうちに、すでに神の思考のうちに存在していたのです。それからその思考が出現して、彼らがこの世に誕生すると、神はヤコブだけを贖いました。ヤコブには子孫の種が内在していたからです。だからヤコブは長子の権利にこだわり、神の契約を尊重しました。もしあなたが真の子孫なら、神のことばを心にとどめるでしょう。御霊はあなたを清め、キリストのからだの一部に組み込み、あなたを満たし、力を与えます。あなたは時代の最新の啓示のことばを受け入れます。みことばの啓示を受けた時、真の証がどれほど明らかになるかを体験するでしょう。イエスは高貴な種でした。人間の肉体をもってこの世に生まれ、霊に呼びかけられたとき、ヨルダンにいき、みことばに従って水の洗礼を受けました。すると聖霊がイエスの上に臨み、声がしました、「これはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」と。声は「これはわたしの子となった」とは言いませんでした。イエスは前から子でしたから。

聖霊が彼を神に認証された子の身分にかえまし

んだ。」

(ローマ 9:13)

その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪もおこなわないうちに、すでに神の思考のうちに存在していたのです。それからその思考が出現して、彼らがこの世に誕生すると、神はヤコブだけを贖いました。ヤコブには子孫の種が内在していたからです。だからヤコブは長子の権利にこだわり、神の契約を尊重しました。もしあなたが真の子孫なら、神のことばを心にとどめるでしょう。御霊はあなたを清め、キリストのからだの一部に組み込み、あなたを満たし、力を与えます。あなたは時代の最新の啓示のことばを受け入れます。みことばの啓示を受けた時、真の証がどれほど明らかになるかを体験するでしょう。イエスは高貴な種でした。人間の肉体をもってこの世に生まれ、霊に呼びかけられたとき、ヨルダンにいき、みことばに従って水の洗礼を受けました。すると聖霊がイエスの上に臨み、声がしました、「これはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」と。声は「これはわたしの子となった」とは言いませんでした。イエスは前から子でしたから。

聖霊が彼を神に認証された子の身分にかえまし

めて、では、いったい、聖霊のバプテスマをうけた人とは誰なのか調べましょう。イエスはこう言われました、

「預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる』と書いてある」

(ヨハネ 6:45)

そしてイザヤ書を読むと、

「あなたの子どもたちはみな、主の教えを受ける」

(イザヤ 54:13)

とあり、神によって教えられる人はみな、神の子どもであることがわかります。御霊が降ってその人のうちに宿っている、聖霊によって神のことばを教えられる、これが神の子どもの証拠です。

なぜ異言が聖霊のバプテスマの証拠でないのか、少しわかって来ましたか。どの時代にも、「異言を語るものは御霊が諸教会に言われることを語りなさい」とは書かれていません。異言や異言の解釈や預言などは、証拠として挙げられていません。聞くこと、御霊の言うことを聞くこと、それが証拠なのです。御霊は語ってい

めて、では、いったい、聖霊のバプテスマをうけた人とは誰なのか調べましょう。イエスはこう言われました、

「預言者の書に、『そして、彼らはみな神によって教えられる』と書いてある」

(ヨハネ 6:45)

そしてイザヤ書を読むと、

「あなたの子どもたちはみな、主の教えを受ける」

(イザヤ 54:13)

とあり、神によって教えられる人はみな、神の子どもであることがわかります。御霊が降ってその人のうちに宿っている、聖霊によって神のことばを教えられる、これが神の子どもの証拠です。

なぜ異言が聖霊のバプテスマの証拠でないのか、少しわかって来ましたか。どの時代にも、「異言を語るものは御霊が諸教会に言われることを語りなさい」とは書かれていません。異言や異言の解釈や預言などは、証拠として挙げられていません。聞くこと、御霊の言うことを聞くこと、それが証拠なのです。御霊は語ってい

ます。御霊は教えています。これこそまさに、聖霊が来れば、聖霊が行うとイエスが教えられたとおりのことなのです。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、

あなたがたにすべてのことを教え、

また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

(ヨハネ 14:26)

このことはまさに実現しました。福音書が書かれたのもこれによります。福音の書記たちは、聖霊によって、イエスが語られたことばを正確に思い出すことができたのです。だから福音は正確なのです。完全なのです。聖霊は思い出させるだけでなく、彼らがすでにいただいている真理をさらに追求して明らかにしています。パウロが啓示をうけたのは、このようにしてでした。

「兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。

ます。御霊は教えています。これこそまさに、聖霊が来れば、聖霊が行うとイエスが教えられたとおりのことなのです。

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、

あなたがたにすべてのことを教え、

また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

(ヨハネ 14:26)

このことはまさに実現しました。福音書が書かれたのもこれによります。福音の書記たちは、聖霊によって、イエスが語られたことばを正確に思い出すことができたのです。だから福音は正確なのです。完全なのです。聖霊は思い出させるだけでなく、彼らがすでにいただいている真理をさらに追求して明らかにしています。パウロが啓示をうけたのは、このようにしてでした。

「兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。

節では、イエスは弟子たちに対して、「わたしたちは(御父と御子)その人のところに来て、その人とともに住みます。」と言っています。ですから、父と子と聖霊が同時に来られるのです。なぜなら、神格を形成しているのはおひとりの神だからです。イエスが弟子たちに約束した助け主の到来は、五旬祭の時でした。霊は二度降って来たのではなく、一度です。残念なことに、真理を理解していない人たちがいて、罪の赦しのためにイエスを信じて、その先に進んで聖霊を受けようとしません。

この章を終わる前に、もうひとつ、はっきりさせておくことがあります。わたしが霊魂先在(Preexistence)の教義を信じているか知りたいと思っている人がいますが、わたしはモルモン教の教義、すなわち肉体と合致する以前から霊魂が先在するという教えを信じていません。もとより、輪廻転生も魂の変容も信じていません。注意していただきたいのは、永遠の神から前もって定められていたのはヒトではなく、みことばあるいは子孫(種)であるということです。そうです。はるか昔、人間の理解をはるかに超えた遠い昔に、永遠の神は永遠の思考を口に出して、こう宣言しました、

「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎

節では、イエスは弟子たちに対して、「わたしたちは(御父と御子)その人のところに来て、その人とともに住みます。」と言っています。ですから、父と子と聖霊が同時に来られるのです。なぜなら、神格を形成しているのはおひとりの神だからです。イエスが弟子たちに約束した助け主の到来は、五旬祭の時でした。霊は二度降って来たのではなく、一度です。残念なことに、真理を理解していない人たちがいて、罪の赦しのためにイエスを信じて、その先に進んで聖霊を受けようとしません。

この章を終わる前に、もうひとつ、はっきりさせておくことがあります。わたしが霊魂先在(Preexistence)の教義を信じているか知りたいと思っている人がいますが、わたしはモルモン教の教義、すなわち肉体と合致する以前から霊魂が先在するという教えを信じていません。もとより、輪廻転生も魂の変容も信じていません。注意していただきたいのは、永遠の神から前もって定められていたのはヒトではなく、みことばあるいは子孫(種)であるということです。そうです。はるか昔、人間の理解をはるかに超えた遠い昔に、永遠の神は永遠の思考を口に出して、こう宣言しました、

「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎

れは新しい誕生です。神のことばを聞いて、悔い改め、神への誠意を示すために水による洗礼を受けたあなたのうちに、神の霊が入って、あなたを満たすことです。

さて、神はおひとりであるという理解の上にとつて、話を進めてきました。神は三位一体ではなく、おひとりです。ですから、わたしたちはイエスのいのちの霊を受けて生まれ変わり、その結果聖霊が降って、力を受けたのではありません。もしそうなら、御父に対して失礼を働いてしまうこととなります。御父なしで救いを完成させてしまうのですから。もし救いが主によるのであって、主が三人おられるのなら、御父にも何かの出番がなくてはなりません。しかし、そのような混乱が起きないように、イエスははっきりと言われました。神は神おひとりであつて、その唯一の神が信じるものところに来るのだと。

ヨハネ 14:16 で、イエスは、「父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります」と言っています。

しかし、17 節では、「その方(イエス)はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられる」と言っています。

節では、「わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。」と言っています。

れは新しい誕生です。神のことばを聞いて、悔い改め、神への誠意を示すために水による洗礼を受けたあなたのうちに、神の霊が入って、あなたを満たすことです。

さて、神はおひとりであるという理解の上にとつて、話を進めてきました。神は三位一体ではなく、おひとりです。ですから、わたしたちはイエスのいのちの霊を受けて生まれ変わり、その結果聖霊が降って、力を受けたのではありません。もしそうなら、御父に対して失礼を働いてしまうこととなります。御父なしで救いを完成させてしまうのですから。もし救いが主によるのであって、主が三人おられるのなら、御父にも何かの出番がなくてはなりません。しかし、そのような混乱が起きないように、イエスははっきりと言われました。神は神おひとりであつて、その唯一の神が信じるものところに来るのだと。

ヨハネ 14:16 で、イエスは、「父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります」と言っています。

しかし、17 節では、「その方(イエス)はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられる」と言っています。

節では、「わたしは、あなたがたのところに戻って来るのです。」と言っています。

私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。

私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。

ただイエス・キリストの啓示によつて受けたのです。」

(ガラテヤ 1:11-12)そうです。パウロは聖霊から教えられたのでした。

イエスが地上におられたとき、ある晩著名な人がやって来ました。彼は、「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。」と言いました。しかしイエスはそれ以上言わず、ニコデモに向かってこのように言い換えられました。「わたしは教師ではありません。わたしは罪のいけにえの子羊です。わたしはわたしの霊によって、あらたに生まれ変わることができるようにします。しかしあとから来られる方があります。その方が教師で、それは聖霊です。」イエスは神の子羊として、預言者として地上に来られました。それからイエスが霊によって教会に戻って来られたとき、彼は教師とされたのです。

私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。

私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。

ただイエス・キリストの啓示によつて受けたのです。」

(ガラテヤ 1:11-12)そうです。パウロは聖霊から教えられたのでした。

イエスが地上におられたとき、ある晩著名な人がやって来ました。彼は、「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。」と言いました。しかしイエスはそれ以上言わず、ニコデモに向かってこのように言い換えられました。「わたしは教師ではありません。わたしは罪のいけにえの子羊です。わたしはわたしの霊によって、あらたに生まれ変わることができるようにします。しかしあとから来られる方があります。その方が教師で、それは聖霊です。」イエスは神の子羊として、預言者として地上に来られました。それからイエスが霊によって教会に戻って来られたとき、彼は教師とされたのです。

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」すべての時代がこの真理を聞きます。しかし実際には聖霊に満ちた人だけがその時代の啓示を聞くことができます。他の人にはできません。パウロが1コリント 2:6-16 で言ったとおりです。

異言は証拠ではない

これを聞いたら、安心する人もいるかもしれませんが。ちまたには、ひどく誤解を招くような奇妙な教えが行き交っています。それは、ペンテコステ派の人たちが言う、異言を語らなければ聖霊のバプテスマを受けたことにならないということです。彼らの判断基準によると、ノックスやムーディやテイラーやゴーフォースらの偉大な人たちは聖霊を受けていないことになるか、あるいは、誰にも知られずに異言を語っていてそれを説明できないでいると言っているようなものです。それは大きな間違いです。異言は、聖霊に満たされていることの証拠にはなりません。それは、1コリント 12 に記されている9つの賜物のうちのひとつです。聖書のどこにも、異言を語っているうちに聖霊に満たされた、あるいは、異言を語ったので聖霊に満たされたとは書いてありません。そうではなく、「彼らがみな聖霊に満たされたあと、異言を語り出した」それからのちに、彼らは預言し始めたの

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」すべての時代がこの真理を聞きます。しかし実際には聖霊に満ちた人だけがその時代の啓示を聞くことができます。他の人にはできません。パウロが1コリント 2:6-16 で言ったとおりです。

異言は証拠ではない

これを聞いたら、安心する人もいるかもしれませんが。ちまたには、ひどく誤解を招くような奇妙な教えが行き交っています。それは、ペンテコステ派の人たちが言う、異言を語らなければ聖霊のバプテスマを受けたことにならないということです。彼らの判断基準によると、ノックスやムーディやテイラーやゴーフォースらの偉大な人たちは聖霊を受けていないことになるか、あるいは、誰にも知られずに異言を語っていてそれを説明できないでいると言っているようなものです。それは大きな間違いです。異言は、聖霊に満たされていることの証拠にはなりません。それは、1コリント 12 に記されている9つの賜物のうちのひとつです。聖書のどこにも、異言を語っているうちに聖霊に満たされた、あるいは、異言を語ったので聖霊に満たされたとは書いてありません。そうではなく、「彼らがみな聖霊に満たされたあと、異言を語り出した」それからのちに、彼らは預言し始めたの

ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。」

(ガラテヤ 4:4-7)

イエスが来られ、十字架で死なれ、贖い(代価を支払うことにより、もとの持ち主のところに戻ること)を成就してくださいました。そしてわたしたちを子どもの身分にしてくださったのです。わたしたちはすでに子どもですから、子どもにしてもらったものではありません。子どもの身分を与えてもらったのです。この世に肉体をともなっているうちは、神の子どもとしての自覚を持つことができません。以前は悪魔に捕らわれていました。しかしそのような状態にあってもわたしたちは子どもでした。あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。「誰の上に、五旬祭の日に聖霊が注がれましたか？」子どもたちにです。「コリントにおいては？」みことばを聞いているうちに、子どもたちの上に聖霊が注がれました。

聖霊によるバプテスマとは何ですか？ 聖霊によって清められ、キリストのからだの一部になることです。そ

ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。」

(ガラテヤ 4:4-7)

イエスが来られ、十字架で死なれ、贖い(代価を支払うことにより、もとの持ち主のところに戻ること)を成就してくださいました。そしてわたしたちを子どもの身分にしてくださったのです。わたしたちはすでに子どもですから、子どもにしてもらったものではありません。子どもの身分を与えてもらったのです。この世に肉体をともなっているうちは、神の子どもとしての自覚を持つことができません。以前は悪魔に捕らわれていました。しかしそのような状態にあってもわたしたちは子どもでした。あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。「誰の上に、五旬祭の日に聖霊が注がれましたか？」子どもたちにです。「コリントにおいては？」みことばを聞いているうちに、子どもたちの上に聖霊が注がれました。

聖霊によるバプテスマとは何ですか？ 聖霊によって清められ、キリストのからだの一部になることです。そ

きな驚の声を聞いた時、自分が何者であるか気づきました。真の神の子であったものは、霊の叫びのことばを聞くと、自分が何ものであるか気づいて偉大な驚のもとに駆けていくのです。そしてイエスキリストにおいて、天の御座に、永遠に神とともにいることとなります。

さて、とうとう勝利の頭石が、聖霊によるバプテスマというかたちでやってきます。

「しかし定めの時がきたので、神はご自分の御子を遣わし、

この方を女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。

これは律法の下にある者を贖い出すため、

その結果、私たちが子としての身分を受けようになるためです。

そして、あなたがたは子であるゆえに、神は『アバ、父』と呼ぶ、

御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。

きな驚の声を聞いた時、自分が何者であるか気づきました。真の神の子であったものは、霊の叫びのことばを聞くと、自分が何ものであるか気づいて偉大な驚のもとに駆けていくのです。そしてイエスキリストにおいて、天の御座に、永遠に神とともにいることとなります。

さて、とうとう勝利の頭石が、聖霊によるバプテスマというかたちでやってきます。

「しかし定めの時がきたので、神はご自分の御子を遣わし、

この方を女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。

これは律法の下にある者を贖い出すため、

その結果、私たちが子としての身分を受けようになるためです。

そして、あなたがたは子であるゆえに、神は『アバ、父』と呼ぶ、

御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。

です。

こんにち、異言を語ったので聖霊を受けたと主張している人たちがいます。本物の霊の異言を受けたのだと彼らは思っていますが、そうではありません。多くの人々は悪い霊の影響を受けて言語を語っているからです。ある集会に参加して、そこで人々がみな異言を語っているとしましょう。どの異言が聖霊からのものでどれが悪霊からのものかどうやってわかるでしょう？わたしは異教徒のところに行って、魔女たちがドクロから血を飲んでいるのを見ました。彼女らは異言を語り、それを解釈し、預言し、異言を自動書記さえたのです。さて、異言が聖霊を受けた証拠であるなら、すべての異言は神からのものであるはずです。しかし、それを主張する人たちも、本物と偽物の異言があり、本物は神から、偽物はサタンからくることを認めています。では質問します、「どれが本物か、誰が知っていますか？誰が語られた言語を理解しますか？誰にそれを知る識別の賜物が与えられていますか？」これらの答えを出すために、もう少し調べなければなりません。しかしそれまでの間、異言の出所について考えてみましょう。もしあなたが、異言証拠説を支持していて、異言で何が語られているのかわからないなら、すべての異言は神からくると言う立場をとらざる得ないでしょう。すると、悪魔は異言が語

です。

こんにち、異言を語ったので聖霊を受けたと主張している人たちがいます。本物の霊の異言を受けたのだと彼らは思っていますが、そうではありません。多くの人々は悪い霊の影響を受けて言語を語っているからです。ある集会に参加して、そこで人々がみな異言を語っているとしましょう。どの異言が聖霊からのものでどれが悪霊からのものかどうやってわかるでしょう？わたしは異教徒のところに行って、魔女たちがドクロから血を飲んでいるのを見ました。彼女らは異言を語り、それを解釈し、預言し、異言を自動書記さえたのです。さて、異言が聖霊を受けた証拠であるなら、すべての異言は神からのものであるはずです。しかし、それを主張する人たちも、本物と偽物の異言があり、本物は神から、偽物はサタンからくることを認めています。では質問します、「どれが本物か、誰が知っていますか？誰が語られた言語を理解しますか？誰にそれを知る識別の賜物が与えられていますか？」これらの答えを出すために、もう少し調べなければなりません。しかしそれまでの間、異言の出所について考えてみましょう。もしあなたが、異言証拠説を支持していて、異言で何が語られているのかわからないなら、すべての異言は神からくると言う立場をとらざる得ないでしょう。すると、悪魔は異言が語

れないと信じることになる。でもそうではありません。外国の奥地まで入っていく宣教師なら、悪魔も異言を語ることをよく知っています。また経験から、わたしも知っています。

ペンテコステ派の神学者は、聖霊のバプテスマを受けるとき人々が異言を語るという記述が、聖書にないことを認めています。彼らは、使徒の働きに記されている聖霊のバプテスマの場面で、5回のうち3回、異言の記述があることから推測したと認めています。さらに彼らは、聖書には書いてありませんが、二種類の異言があるといます。ひとつは聖霊を受けている間に語る異言で、それがバプテスマの証拠となります。もうひとつは、もし信じるならば賜物として与えられる異言で、その異言はずっと語られていきます。一方、証拠の異言は、バプテスマの際に語られたあと一切語られることはありません。これが彼らの言い分ですが、神はどこでそのようなことを語られたのでしょうか。聖書にその記述がないなら、神は語っておられないのです。災いだ、みことばに付け加える者は。しかし彼らが見落としている(無視している)ことばがあります。1コリント 13 によると、異言には、人の言語と天使の言語があると書かれています。理解できる言語と理解できない言語です。ペンテコステ派の人たちは、聖霊を受けるときには理解できない

れないと信じることになる。でもそうではありません。外国の奥地まで入っていく宣教師なら、悪魔も異言を語ることをよく知っています。また経験から、わたしも知っています。

ペンテコステ派の神学者は、聖霊のバプテスマを受けるとき人々が異言を語るという記述が、聖書にないことを認めています。彼らは、使徒の働きに記されている聖霊のバプテスマの場面で、5回のうち3回、異言の記述があることから推測したと認めています。さらに彼らは、聖書には書いてありませんが、二種類の異言があるといます。ひとつは聖霊を受けている間に語る異言で、それがバプテスマの証拠となります。もうひとつは、もし信じるならば賜物として与えられる異言で、その異言はずっと語られていきます。一方、証拠の異言は、バプテスマの際に語られたあと一切語られることはありません。これが彼らの言い分ですが、神はどこでそのようなことを語られたのでしょうか。聖書にその記述がないなら、神は語っておられないのです。災いだ、みことばに付け加える者は。しかし彼らが見落としている(無視している)ことばがあります。1コリント 13 によると、異言には、人の言語と天使の言語があると書かれています。理解できる言語と理解できない言語です。ペンテコステ派の人たちは、聖霊を受けるときには理解できない

神の子は、自覚する前からずっと神の子であることに変わりはないのです。真のクリスチャンは、鶏小屋で生まれた鷺のひなにたとえることができます。鷺は真の信者のたとえです。ある農家が鷺の巣から卵を取ってきてめんどりに温めさせました。時が来てめんどりの卵がすべて孵化しました。鶏のひなたちはめんどりとうまくやっていましたが、鷺のひなは地面の餌をつついて食べることができずに苦労しました。なんとか生きてはいましたが、何もかもがこんがらがっていました。しかしある日、空高く飛んでいた母鷺が、地面にいる自分のひなを見つけ出しました。ものすごい速さで急降下して、自分のひなに鋭い叫び声を上げ、飛び上がるよう促しました。小さな鷺は今まで鷺の声を聞いたことがありませんでしたが、その声を聞いた途端、内側から何か込み上げてくるものがあって、それに答えたいと強く願いました。でも怖くてできません。再度母鷺は叫び、風に乗って舞い上がってついて来るよう促しました。小さな鷺は、怖くてできないと叫び返しました。母鷺は、いいからやってみなさいと叫びました。小さな鷺は翼をばたつかせ、空に向かって自分を投げ出しました。そうやって母鷺の叫びに答え、青空に舞い上がっていきました。彼はいつか鶏のように振る舞いましたが、満足できずにいきました。彼は最初からずっと鷺だったからです。でも大

神の子は、自覚する前からずっと神の子であることに変わりはないのです。真のクリスチャンは、鶏小屋で生まれた鷺のひなにたとえることができます。鷺は真の信者のたとえです。ある農家が鷺の巣から卵を取ってきてめんどりに温めさせました。時が来てめんどりの卵がすべて孵化しました。鶏のひなたちはめんどりとうまくやっていましたが、鷺のひなは地面の餌をつついて食べることができずに苦労しました。なんとか生きてはいましたが、何もかもがこんがらがっていました。しかしある日、空高く飛んでいた母鷺が、地面にいる自分のひなを見つけ出しました。ものすごい速さで急降下して、自分のひなに鋭い叫び声を上げ、飛び上がるよう促しました。小さな鷺は今まで鷺の声を聞いたことがありませんでしたが、その声を聞いた途端、内側から何か込み上げてくるものがあって、それに答えたいと強く願いました。でも怖くてできません。再度母鷺は叫び、風に乗って舞い上がってついて来るよう促しました。小さな鷺は、怖くてできないと叫び返しました。母鷺は、いいからやってみなさいと叫びました。小さな鷺は翼をばたつかせ、空に向かって自分を投げ出しました。そうやって母鷺の叫びに答え、青空に舞い上がっていきました。彼はいつか鶏のように振る舞いましたが、満足できずにいきました。彼は最初からずっと鷺だったからです。でも大

ので、神の子どもとなり、わたしたちはそう呼ばれるのです。生まれ変わることで子孫になったのではなく、もともと子孫だったので生まれ変わることができたのです。選ばれたものだけが生まれ変わることができるのです。わたしたちは子孫だったので、時期を経ていのちを得ることができました。種を持たないものは、いのちを得ることができません。

このことを念頭に置いて、次に移りましょう。贖いとは、買い戻すことです。最初の持ち主のもとに戻ることです。神は死によって、血を流すことによって、ご自分のものを買い戻されました。神の仰せの子孫である花嫁は、神によって買い戻されました。「わたしの羊はわたしの声(ことば)を聞く、そしてわたしに従う。」あなたはずっと羊でした。豚や犬から羊に変わったわけではありません。すべてのいのちあるものは、同じ種類を生じさせるのであって、異種を生じさせないからです。わたしたちは神の思考の中にあつたのが、肉体を持ってこの世に生まれました。やがて神の声(ことば)を聞く日がやってくるに違いありません。その声を聞いたなら、御父が呼んでおられることに気づき、神の子としての自覚をもつこととなります。わたしたちは神の声を聞くと、放蕩息子のように叫びました、「お父さん、わたしを救ってください。あなたのもとに帰ります。」

ので、神の子どもとなり、わたしたちはそう呼ばれるのです。生まれ変わることで子孫になったのではなく、もともと子孫だったので生まれ変わることができたのです。選ばれたものだけが生まれ変わることができるのです。わたしたちは子孫だったので、時期を経ていのちを得ることができました。種を持たないものは、いのちを得ることができません。

このことを念頭に置いて、次に移りましょう。贖いとは、買い戻すことです。最初の持ち主のもとに戻ることです。神は死によって、血を流すことによって、ご自分のものを買い戻されました。神の仰せの子孫である花嫁は、神によって買い戻されました。「わたしの羊はわたしの声(ことば)を聞く、そしてわたしに従う。」あなたはずっと羊でした。豚や犬から羊に変わったわけではありません。すべてのいのちあるものは、同じ種類を生じさせるのであって、異種を生じさせないからです。わたしたちは神の思考の中にあつたのが、肉体を持ってこの世に生まれました。やがて神の声(ことば)を聞く日がやってくるに違いありません。その声を聞いたなら、御父が呼んでおられることに気づき、神の子としての自覚をもつこととなります。わたしたちは神の声を聞くと、放蕩息子のように叫びました、「お父さん、わたしを救ってください。あなたのもとに帰ります。」

言葉あるいは天使の言語を語ると言っ、墓穴を掘っています。なぜなら、使徒の働き2章によれば、聖霊降臨の時に人々は完璧な方言を語ったので、未信者でさえそれを聞いて理解したと書かれているからです。

神が沈黙される時、わたしたちも沈黙しましょう。神が語られたなら、わたしたちも口を開いて、神が語られたことを語りましょう。神は、聖霊のバプテスマを受けた証拠、あるいは、受けたあと何が起きるかを語られました。教師が来て、真理について全て明らかにしてくれるのです。でも、その教師はわたしたちの内側に存在するのであって、姿形を持った教師ではないのです。もし、御霊が内側におられないなら、いくら毎日まい時間真理が語られていても、それを聞くことができず、啓示を受けて理解することができないのです。それがパウロの時代に御霊が宿っているしるしでした。聖霊に満たされた人たちは、みことばを聞き、理解し、それに従って生きました。御霊を受けていない人たちは、肉の人としてみことばを聞き、間違つた解釈をし、罪から離れませんでした。

真の信者にとっては、すべての時代が聖霊の時代であり、どの時代でも、聖霊が真の信者に与えられている証拠は同じです。教師である御霊を受けている人た

言葉あるいは天使の言語を語ると言っ、墓穴を掘っています。なぜなら、使徒の働き2章によれば、聖霊降臨の時に人々は完璧な方言を語ったので、未信者でさえそれを聞いて理解したと書かれているからです。

神が沈黙される時、わたしたちも沈黙しましょう。神が語られたなら、わたしたちも口を開いて、神が語られたことを語りましょう。神は、聖霊のバプテスマを受けた証拠、あるいは、受けたあと何が起きるかを語られました。教師が来て、真理について全て明らかにしてくれるのです。でも、その教師はわたしたちの内側に存在するのであって、姿形を持った教師ではないのです。もし、御霊が内側におられないなら、いくら毎日まい時間真理が語られていても、それを聞くことができず、啓示を受けて理解することができないのです。それがパウロの時代に御霊が宿っているしるしでした。聖霊に満たされた人たちは、みことばを聞き、理解し、それに従って生きました。御霊を受けていない人たちは、肉の人としてみことばを聞き、間違つた解釈をし、罪から離れませんでした。

真の信者にとっては、すべての時代が聖霊の時代であり、どの時代でも、聖霊が真の信者に与えられている証拠は同じです。教師である御霊を受けている人た

ちがみことばを聞くと、内なる御霊がみことばを取り上げ、彼らにわかるように教えてくれるのです。彼らこそが、その時代の使者のメッセージを聞き、理解し、そのとおりに生きた人たちです。

聖霊降臨の時やコルネリアスの家に聖霊が降った時を引き合いに出して、異言が聖霊のバプテスマの証拠であると主張したい衝動にかられるかもしれませんが。しかし、その時に語られた異言は、聞いている人が理解できる言語でした。ペンテコステ集会で聞かれる現代版バベルの混乱とはまったく違うものです。これでもまだ納得できないのなら、もうひとつ、事実をお話します。一度も異言を語ったことがなくても、他の八つの賜物を持っている人たちがいるのが事実です。知恵のことば、霊の識別、知識のことば、信仰、癒し、それに奇跡を起こすことなどの賜物です。これらの賜物に比べると異言は軽いのです。実際に異言を語らない人たちがもっと重要な賜物を用いているのですから、そのような証拠説は支持すべきではないでしょう。

聖書が語っていないことを、わたしたちが語ることはできないのです。聖書が聖霊の働きを教え、祝福されたお方の姿を示すのは、各時代に明かされた真理を、その時代の正統な子孫に与えるためです。ですか

ちがみことばを聞くと、内なる御霊がみことばを取り上げ、彼らにわかるように教えてくれるのです。彼らこそが、その時代の使者のメッセージを聞き、理解し、そのとおりに生きた人たちです。

聖霊降臨の時やコルネリアスの家に聖霊が降った時を引き合いに出して、異言が聖霊のバプテスマの証拠であると主張したい衝動にかられるかもしれませんが。しかし、その時に語られた異言は、聞いている人が理解できる言語でした。ペンテコステ集会で聞かれる現代版バベルの混乱とはまったく違うものです。これでもまだ納得できないのなら、もうひとつ、事実をお話します。一度も異言を語ったことがなくても、他の八つの賜物を持っている人たちがいるのが事実です。知恵のことば、霊の識別、知識のことば、信仰、癒し、それに奇跡を起こすことなどの賜物です。これらの賜物に比べると異言は軽いのです。実際に異言を語らない人たちがもっと重要な賜物を用いているのですから、そのような証拠説は支持すべきではないでしょう。

聖書が語っていないことを、わたしたちが語ることはできないのです。聖書が聖霊の働きを教え、祝福されたお方の姿を示すのは、各時代に明かされた真理を、その時代の正統な子孫に与えるためです。ですか

義づけをはっきりさせていき、ガラテア3章では、単数形の子孫をキリストに、「子孫たち」を約束の子どもたちに限定しました。また約束とは「神の選び」に関わることとしました。正統な血筋となるものは、神の選びによってあらかじめ決められていた人たちであり、神の思考の中に存在していた人たちです。はっきり言えば、真のキリストの花嫁は、それぞれ定められた時が来てこの世に出現するまでは永遠の神の思考の中にいました。この花嫁とは、神の仰せの子孫である花嫁です。花嫁ですから女性形ですが、「キリストのからだ」とも呼ばれています。彼女はキリストによって前もって定められていたので、そう呼ばれるのは妥当です。彼女はキリストから出て、永遠にキリストとともにいて、そして今は、多くの構成員からなるキリストのからだの一員として、神を明らかにしています。わたしたちの主イエスキリストも、かつてからだの一員として、神を明らかにされました。

結論に近づいていきました。永遠のロゴス(神)は御子のうちに出現しました。イエスのうちには神性が余すところなく満ちあふれていました。この永遠のお方は、御父が肉の体を持って出現されたので、御子と言われました。わたしたちは、永遠に神の思考の中に存在していたが、定められた時に世に生まれて、神の仰せの子孫となりました。永遠の思考が肉の体を持って現れた

義づけをはっきりさせていき、ガラテア3章では、単数形の子孫をキリストに、「子孫たち」を約束の子どもたちに限定しました。また約束とは「神の選び」に関わることとしました。正統な血筋となるものは、神の選びによってあらかじめ決められていた人たちであり、神の思考の中に存在していた人たちです。はっきり言えば、真のキリストの花嫁は、それぞれ定められた時が来てこの世に出現するまでは永遠の神の思考の中にいました。この花嫁とは、神の仰せの子孫である花嫁です。花嫁ですから女性形ですが、「キリストのからだ」とも呼ばれています。彼女はキリストによって前もって定められていたので、そう呼ばれるのは妥当です。彼女はキリストから出て、永遠にキリストとともにいて、そして今は、多くの構成員からなるキリストのからだの一員として、神を明らかにしています。わたしたちの主イエスキリストも、かつてからだの一員として、神を明らかにされました。

結論に近づいていきました。永遠のロゴス(神)は御子のうちに出現しました。イエスのうちには神性が余すところなく満ちあふれていました。この永遠のお方は、御父が肉の体を持って出現されたので、御子と言われました。わたしたちは、永遠に神の思考の中に存在していたが、定められた時に世に生まれて、神の仰せの子孫となりました。永遠の思考が肉の体を持って現れた

(ローマ 9:7-13)

「ところで、約束は、アブラハムとその
ひとりの子孫に告げられました。

神は『子孫たちに』と言って、多数を
さすことはせず、

ひとりをさして、『あなたの子孫に』と
言っておられます。その方はキリストで
す。」

(ガラテア 3:16)

「もしあなたがキリストのものであれ
ば、それによってアブラハムの子孫であ
り、

約束による相続人なのです。」

(ガラテア 3:29)

ローマ 4:16 によれば、神はアブラハムのすべ
ての子孫に確かな約束をされています。「アブラハムは私
たちすべての者の父です」とあるとおり、パウロ自身も、
すべての信者も当該者となります。そこからパウロは定

ら、御霊がその人の内に宿っていなければ、誰もその時
代に与えられた真理を理解することができないのです。
アーメン。そして各時代が何かを生み出すとすれば、こ
の真理を生み出し、実をつけるのです。

つぎに移るまえに、聖霊のバプテスマとは何かを
はっきりさせたいと思います。わたしの見解ではなく、あ
なたの見解でもあつてはなりません。それは、はっきり
神から「主がこう言われる」と裏付けを得たものでなく
てはなりません。そうでなければ、道から迷い出てしま
います。アーメン。

わたしの集会では、説教や教えが終わったあとに、
神のもとに来よう呼びかけます。そして応じた人たち
に、前に来て聖霊を受けるように勧めます。ペンテコス
テ派の友よ、こう話すと、すでに生まれ変わった人たち
を前に来させて聖霊のバプテスマを受けるよう勧めてい
ると思うかもしれませんが、つまり、わたしが聖霊に満た
された人たちを招いて聖霊を受けるように勧めると、応
じた人たちが押しかけてきて、人々を神に委ね、異言が語
れると信じるよう勧めているのだと。これはとんでもな
い思い違いです。事実は全く別です。わたしは罪びとを
招いて生まれ変わるよう勧めているのです。生まれ変
わるとは、聖霊によって、バプテスマを受けてキリストの

(ローマ 9:7-13)

「ところで、約束は、アブラハムとその
ひとりの子孫に告げられました。

神は『子孫たちに』と言って、多数を
さすことはせず、

ひとりをさして、『あなたの子孫に』と
言っておられます。その方はキリストで
す。」

(ガラテア 3:16)

「もしあなたがキリストのものであれ
ば、それによってアブラハムの子孫であ
り、

約束による相続人なのです。」

(ガラテア 3:29)

ローマ 4:16 によれば、神はアブラハムのすべ
ての子孫に確かな約束をされています。「アブラハムは私
たちすべての者の父です」とあるとおり、パウロ自身も、
すべての信者も当該者となります。そこからパウロは定

ら、御霊がその人の内に宿っていなければ、誰もその時
代に与えられた真理を理解することができないのです。
アーメン。そして各時代が何かを生み出すとすれば、こ
の真理を生み出し、実をつけるのです。

つぎに移るまえに、聖霊のバプテスマとは何かを
はっきりさせたいと思います。わたしの見解ではなく、あ
なたの見解でもあつてはなりません。それは、はっきり
神から「主がこう言われる」と裏付けを得たものでなく
てはなりません。そうでなければ、道から迷い出てしま
います。アーメン。

わたしの集会では、説教や教えが終わったあとに、
神のもとに来よう呼びかけます。そして応じた人たち
に、前に来て聖霊を受けるように勧めます。ペンテコス
テ派の友よ、こう話すと、すでに生まれ変わった人たち
を前に来させて聖霊のバプテスマを受けるよう勧めてい
ると思うかもしれませんが、つまり、わたしが聖霊に満た
された人たちを招いて聖霊を受けるように勧めると、応
じた人たちが押しかけてきて、人々を神に委ね、異言が語
れると信じるよう勧めているのだと。これはとんでもな
い思い違いです。事実は全く別です。わたしは罪びとを
招いて生まれ変わるよう勧めているのです。生まれ変
わるとは、聖霊によって、バプテスマを受けてキリストの

からだに組み込まれることです。あの聖霊降臨の時にまさに起こったことがそれです。言い換えれば、聖霊によって生まれるということは、聖霊によってバプテスマを受けることと同じです。

あなたが信じた後聖霊を受け入れる

聖霊を受けるタイミングについても、混乱が起きています。わたしがかつてバプテスト派の宣教師であったことをご存知の方は多いと思います。バプテスト派の人たちは、信じた時に聖霊を受けると言っていますが、断固として言いますが、それは間違っています。真実は、「信じてから(後)」に聖霊を受けるのです。

『信じたとき、聖霊を受けましたか』と尋ねると、

彼らは、「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした』と答えました。

『では、どんなバプテスマを受けたのですか』と言うと、

『ヨハネのバプテスマです』と答え

からだに組み込まれることです。あの聖霊降臨の時にまさに起こったことがそれです。言い換えれば、聖霊によって生まれるということは、聖霊によってバプテスマを受けることと同じです。

あなたが信じた後聖霊を受け入れる

聖霊を受けるタイミングについても、混乱が起きています。わたしがかつてバプテスト派の宣教師であったことをご存知の方は多いと思います。バプテスト派の人たちは、信じた時に聖霊を受けると言っていますが、断固として言いますが、それは間違っています。真実は、「信じてから(後)」に聖霊を受けるのです。

『信じたとき、聖霊を受けましたか』と尋ねると、

彼らは、「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした』と答えました。

『では、どんなバプテスマを受けたのですか』と言うと、

『ヨハネのバプテスマです』と答え

「アブラハムから出たからといって、すべてが子どもなのではなく、『イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる』のだからです。

すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもではなく、約束の子どもが子孫とみなされるのです。

約束のみことばはこうです。『私は来年の今ごろ来ます。そして、サラは男の子を産みます。』このことだけでなく、私たちの父、イサクひとりによってみごもったリベカのこともあります。

その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪も行われないうちに、神の選びのご計画の確かさが、行いにはよらず、召してくださる方によるようにと、『兄は弟に使える』と彼女に告げられたのです。

『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ』と書いてあるとおりです。」

「アブラハムから出たからといって、すべてが子どもなのではなく、『イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる』のだからです。

すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもではなく、約束の子どもが子孫とみなされるのです。

約束のみことばはこうです。『私は来年の今ごろ来ます。そして、サラは男の子を産みます。』このことだけでなく、私たちの父、イサクひとりによってみごもったリベカのこともあります。

その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪も行われないうちに、神の選びのご計画の確かさが、行いにはよらず、召してくださる方によるようにと、『兄は弟に使える』と彼女に告げられたのです。

『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ』と書いてあるとおりです。」

た。一方、ヨシユアとカレブは、神の「靈的選び」でした。

さて、選びというのは、時が満ちて神の永遠の思考がこの世に現れることだけではありません。同じ選びが、別の呼び方をされることもあります。

「そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。

それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、

すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、

アブラハムの信仰に習う人々にも保証されるためなのです。

『わたしはあなたをあらゆる国の人々の父とした』と書いてあるとおりに、

アブラハムは私たちすべての者の父なのです。」

(ローマ 4:16)

た。一方、ヨシユアとカレブは、神の「靈的選び」でした。

さて、選びというのは、時が満ちて神の永遠の思考がこの世に現れることだけではありません。同じ選びが、別の呼び方をされることもあります。

「そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。

それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、

すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、

アブラハムの信仰に習う人々にも保証されるためなのです。

『わたしはあなたをあらゆる国の人々の父とした』と書いてあるとおりに、

アブラハムは私たちすべての者の父なのです。」

(ローマ 4:16)

た。

そこで、パウロは、

『ヨハネは、自分のあとに来られるイエスを信じるように人々に告げて、

悔い改めのバプテスマを受けたのです。』

これを聞いたその人々は、主イエスキリストの御名によってバプテスマを受けた。

パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、

彼らは異言を語ったり、預言したりした。」

(使徒行伝19:2-6)

パウロは「信じたとき、聖霊を受けましたか」と尋ねましたが(日本語の聖書ではこの時制の表記が曖昧なのですが)、信じた時という意味ではありません。とても大きな違いです。信じてから後に、聖霊を受けたので

た。

そこで、パウロは、

『ヨハネは、自分のあとに来られるイエスを信じるように人々に告げて、

悔い改めのバプテスマを受けたのです。』

これを聞いたその人々は、主イエスキリストの御名によってバプテスマを受けた。

パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、

彼らは異言を語ったり、預言したりした。」

(使徒行伝19:2-6)

パウロは「信じたとき、聖霊を受けましたか」と尋ねましたが(日本語の聖書ではこの時制の表記が曖昧なのですが)、信じた時という意味ではありません。とても大きな違いです。信じてから後に、聖霊を受けたので

す。エペソの信徒たちに起こったことが、追認となります。

「この方であってあなたがたもまた、
真理のことは、あなたがたの救いの福音
を聞き、

またそれを信じたことにより、約束の
聖霊を持って証印を押されました。」

(エペソ 1:13)

わたしが言いたいのはこうです。現代人の多くが、また、原理主義者(自称)さえもが、救いということを、「決意した」時点に限定しており、その時点でキリストを受け、あるいは、生まれ変わったと信じています。キリストを受けるとするのは、キリストの霊を受けることです。キリストの霊を受けるとするのは、生まれ変わるということです。キリストの霊を受けるとするのは、聖霊のバプテスマを受けることです。アーメン。素晴らしいことに、ここまでは、多くの人も信じています。しかし、そこで止まってしまいます。あなたは信じた。それから聖霊を受けるのです。今までずっとそうだったし、これからもずっとそうです。五旬祭(ペンテコステ)の時、ペトロが出した最初の指示はこうです。

す。エペソの信徒たちに起こったことが、追認となります。

「この方であってあなたがたもまた、
真理のことは、あなたがたの救いの福音
を聞き、

またそれを信じたことにより、約束の
聖霊を持って証印を押されました。」

(エペソ 1:13)

わたしが言いたいのはこうです。現代人の多くが、また、原理主義者(自称)さえもが、救いということを、「決意した」時点に限定しており、その時点でキリストを受け、あるいは、生まれ変わったと信じています。キリストを受けるとするのは、キリストの霊を受けることです。キリストの霊を受けるとするのは、生まれ変わるということです。キリストの霊を受けるとするのは、聖霊のバプテスマを受けることです。アーメン。素晴らしいことに、ここまでは、多くの人も信じています。しかし、そこで止まってしまいます。あなたは信じた。それから聖霊を受けるのです。今までずっとそうだったし、これからもずっとそうです。五旬祭(ペンテコステ)の時、ペトロが出した最初の指示はこうです。

ことに永遠の価値が生じているのです。これを無視することはできません。

人間の誕生にも、選びの原理が働いています。女性の子宮はたくさんの卵子を出しますが、どうして、ある特定のときに特定の卵子が出てくるのでしょうか？ どうして他の卵子ではないのでしょうか？ そして男性の精子も、どうしてかはわかりませんが、ある特定の精子が卵子に結びつきます。他の精子はもっとたやすくその卵子に到達できたかもしれないし、もっとそのチャンスがあったかもしれないのに、そうはならず消滅しました。そこにはある知能が働いていると言えます。そうでなければ、どうやって、赤子が男か女か、ブロンドか茶色か、青い目か黒い目かなど、決定されるのでしょうか？ このことを念頭において、ヨシユアとカレブについて考えてみましょう。イエスは、

「あなたがたの父祖たちは荒野でマ
ナを食べたが、死にました。」

(ヨハネ 6:49)

と言いませんでしたか？ 荒野で死んだのは、イエスが話しかけている人たちの先祖であったのでしょうか。荒れ野で滅びたのは、神の「自然の選び」の人たちでし

ことに永遠の価値が生じているのです。これを無視することはできません。

人間の誕生にも、選びの原理が働いています。女性の子宮はたくさんの卵子を出しますが、どうして、ある特定のときに特定の卵子が出てくるのでしょうか？ どうして他の卵子ではないのでしょうか？ そして男性の精子も、どうしてかはわかりませんが、ある特定の精子が卵子に結びつきます。他の精子はもっとたやすくその卵子に到達できたかもしれないし、もっとそのチャンスがあったかもしれないのに、そうはならず消滅しました。そこにはある知能が働いていると言えます。そうでなければ、どうやって、赤子が男か女か、ブロンドか茶色か、青い目か黒い目かなど、決定されるのでしょうか？ このことを念頭において、ヨシユアとカレブについて考えてみましょう。イエスは、

「あなたがたの父祖たちは荒野でマ
ナを食べたが、死にました。」

(ヨハネ 6:49)

と言いませんでしたか？ 荒野で死んだのは、イエスが話しかけている人たちの先祖であったのでしょうか。荒れ野で滅びたのは、神の「自然の選び」の人たちでし

私のために造られた日々が、しかも、
その一日もないうちに。」

(詩篇 139:15-16)

これはアダムについて書かれたものではありませんが、神の思考のうちすべてが計画されて、組み立てられていたことをはかり知ることができます。その思考は永遠ですから、表現されなければなりません。アダムが大地のちりから造られ、神によっていのちあるものとなったとき、初めてアダムは、神の思考が、永遠の思いが、具現化したものとなったのです。

モーゼもエレミヤも洗礼者ヨハネも、それぞれ神の永遠の思考が、それぞれの時代に具現化して登場しました。それから、ことばであるイエスが登場しました。イエスは、神の思考が完全無欠で現れた、そしてみことばとして知られることとなったお方でした。そして今もそうです。そしてこれからもそうあります。

「神はイエスにおいて、私たちが世界の基が築かれる前からお選びになった」とありますが、それはわたしたちがすでに、イエスと共にそこに存在していたということです。わたしたちは、世界の基が築かれる前から神の思考の中に存在していたのです。すると、選びという

私のために造られた日々が、しかも、
その一日もないうちに。」

(詩篇 139:15-16)

これはアダムについて書かれたものではありませんが、神の思考のうちすべてが計画されて、組み立てられていたことをはかり知ることができます。その思考は永遠ですから、表現されなければなりません。アダムが大地のちりから造られ、神によっていのちあるものとなったとき、初めてアダムは、神の思考が、永遠の思いが、具現化したものとなったのです。

モーゼもエレミヤも洗礼者ヨハネも、それぞれ神の永遠の思考が、それぞれの時代に具現化して登場しました。それから、ことばであるイエスが登場しました。イエスは、神の思考が完全無欠で現れた、そしてみことばとして知られることとなったお方でした。そして今もそうです。そしてこれからもそうあります。

「神はイエスにおいて、私たちが世界の基が築かれる前からお選びになった」とありますが、それはわたしたちがすでに、イエスと共にそこに存在していたということです。わたしたちは、世界の基が築かれる前から神の思考の中に存在していたのです。すると、選びという

「悔い改めなさい。

そして、それぞれ罪を赦していただくために、

イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。

そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」

(使徒の働き 2:38)

五旬祭に実際に起こったことを説明して、ペトロが答えた指示でした。実際起こったこととは、神がヨエルの預言どおりに、約束された聖霊をすべての肉に注いだということです。聖霊はこれ以前に注がれたのではなく、これ以前に与えられたのでもありません。しかし、このことが起こってから以降は、神は、悔い改めて主イエスキリストの名によって洗礼を受ける人を聖霊で満たすという約束を果たされています。ペトロも、他の使徒たちも、「生まれ変わらなさい、そうすれば聖霊で満たされます」とは言っていません。

聖書には聖霊を受ける経験の行動様式が書かれ

「悔い改めなさい。

そして、それぞれ罪を赦していただくために、

イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。

そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」

(使徒の働き 2:38)

五旬祭に実際に起こったことを説明して、ペトロが答えた指示でした。実際起こったこととは、神がヨエルの預言どおりに、約束された聖霊をすべての肉に注いだということです。聖霊はこれ以前に注がれたのではなく、これ以前に与えられたのでもありません。しかし、このことが起こってから以降は、神は、悔い改めて主イエスキリストの名によって洗礼を受ける人を聖霊で満たすという約束を果たされています。ペトロも、他の使徒たちも、「生まれ変わらなさい、そうすれば聖霊で満たされます」とは言っていません。

聖書には聖霊を受ける経験の行動様式が書かれ

ています。これからは、聖霊が降ったときには、注意してみてください。

「ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

群衆はピリポの話を読み、その行なっていたしるしを見て、みなそろって、

彼の語ることに耳を傾けた。汚れた霊につかれた多くの人たちからは、

その霊が大声で叫んで出て行くし、多くの中風の者や足のなえた者は直ったからである。

それでその町に大きな喜びが起こった。ところが、この町にシモンという人がいた。

彼は以前からこの町で魔術を行なって、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと話していた。

小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、

ています。これからは、聖霊が降ったときには、注意してみてください。

「ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

群衆はピリポの話を読み、その行なっていたしるしを見て、みなそろって、

彼の語ることに耳を傾けた。汚れた霊につかれた多くの人たちからは、

その霊が大声で叫んで出て行くし、多くの中風の者や足のなえた者は直ったからである。

それでその町に大きな喜びが起こった。ところが、この町にシモンという人がいた。

彼は以前からこの町で魔術を行なって、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと話していた。

小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、

をする必要もないし、新たな知識を加える必要もありません。もし神が知識を増し加えるなら、全知とは言えません。時々はそのようにすることもできるかもしれないとしても、それは聖書的ではありません。神は全知なのです。新しい思考を持つことはありません。神の思考は昔も今も未来もずっと変わらないのです。神であられるので、初めから終わりのことまで全てご存知です。ですから、神の思考は永遠であり、実在するものなのです。ある人が青写真を描き、それをいつか実物にするというとはわけが違います。神の思考はすでに現実であり、永遠に存在し続け、神の一部なのです。

神のうちにはいつもアダムへの思いがありました。神の思考の中のアダムはまだ表現されていませんでした。

「私がひそかに造られ、地の深い所で仕組まれたとき、

私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。

あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書き記されました。

をする必要もないし、新たな知識を加える必要もありません。もし神が知識を増し加えるなら、全知とは言えません。時々はそのようにすることもできるかもしれないとしても、それは聖書的ではありません。神は全知なのです。新しい思考を持つことはありません。神の思考は昔も今も未来もずっと変わらないのです。神であられるので、初めから終わりのことまで全てご存知です。ですから、神の思考は永遠であり、実在するものなのです。ある人が青写真を描き、それをいつか実物にするというとはわけが違います。神の思考はすでに現実であり、永遠に存在し続け、神の一部なのです。

神のうちにはいつもアダムへの思いがありました。神の思考の中のアダムはまだ表現されていませんでした。

「私がひそかに造られ、地の深い所で仕組まれたとき、

私の骨組みはあなたに隠れてはいませんでした。

あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書き記されました。

ご自分のために花嫁の選びは行われたのです。

「神の選びの計画の確かさは、行いにはよらず、召してくださる方による」

(ローマ 9:11)

このことばに、別の解釈をすることは不可能でしょう。神の永遠の目的はご自身のために花嫁を選ぶことだったのです。そしてその選びは、世界が築かれる以前にすでに定められていたのです。

さて、星屑ひとつ存在しない頃、神が神である以前(神は崇拜されるから神なのであって、だれも存在していない状態では、潜在的な神であったと言えます)、ただ永遠の霊であった頃、花嫁はすでに神の思考の中におりました。花嫁は神の思考のうちに存在していたのです。神の思考とは何でしょう。それは永遠です。

「神の思考は永遠ですか?」これがわかれば、多くのことがわかります。神は本質的に不変です。そのふるまいのパターンも不変です。そのことはすでに立証済みです。神の可能性は無限なので、神は全知です。神が全知なら、学ぶ必要もないし、自分にカウンセリング

ご自分のために花嫁の選びは行われたのです。

「神の選びの計画の確かさは、行いにはよらず、召してくださる方による」

(ローマ 9:11)

このことばに、別の解釈をすることは不可能でしょう。神の永遠の目的はご自身のために花嫁を選ぶことだったのです。そしてその選びは、世界が築かれる以前にすでに定められていたのです。

さて、星屑ひとつ存在しない頃、神が神である以前(神は崇拜されるから神なのであって、だれも存在していない状態では、潜在的な神であったと言えます)、ただ永遠の霊であった頃、花嫁はすでに神の思考の中におりました。花嫁は神の思考のうちに存在していたのです。神の思考とは何でしょう。それは永遠です。

「神の思考は永遠ですか?」これがわかれば、多くのことがわかります。神は本質的に不変です。そのふるまいのパターンも不変です。そのことはすでに立証済みです。神の可能性は無限なので、神は全知です。神が全知なら、学ぶ必要もないし、自分にカウンセリング

『この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ』と言っていた。

人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かされていたからである。

しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。

シモン自身も信じてバプテスマを受け、いつもピリポについていた。

そして、しるしとすばらしい奇跡が行われるのを見て、驚いていた。

さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、

ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。

ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。

『この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ』と言っていた。

人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かされていたからである。

しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。

シモン自身も信じてバプテスマを受け、いつもピリポについていた。

そして、しるしとすばらしい奇跡が行われるのを見て、驚いていた。

さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、

ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。

ふたりは下って行って、人々が聖霊を受けるように祈った。

彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、

聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。

ふたりが手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」

(使徒の働き 8:5-17)

節によると、彼らは神のことばを信じ、それから主イエスキリストの名において洗礼を受けました。しかし、16節によると、信じて受洗してもまだ、彼らは聖霊を受けていなかったのです。ですから、信じて、正しい御名によって洗礼を受けたあと、聖霊を受けるのです。これが聖霊を受ける行動様式であり、ペトロが言ったとおりです。

「そこでペトロは彼らに答えた。

『悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、

イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。

彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、

聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。

ふたりが手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」

(使徒の働き 8:5-17)

節によると、彼らは神のことばを信じ、それから主イエスキリストの名において洗礼を受けました。しかし、16節によると、信じて受洗してもまだ、彼らは聖霊を受けていなかったのです。ですから、信じて、正しい御名によって洗礼を受けたあと、聖霊を受けるのです。これが聖霊を受ける行動様式であり、ペトロが言ったとおりです。

「そこでペトロは彼らに答えた。

『悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、

イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。

れました。

神は、みむねとみころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、

愛をもってあらかじめ定めておられました。」

(エペソ 1:4-5)

神の主権についてはさておいて、(これを取り上げたら、本一冊分になってしまいますから)これらの聖書箇所からわかることは、男性が花嫁を選ぶように、イエスキリストはご自分の花嫁を選んでいるということです。花嫁がだれを花婿にするか決めるのではありません。花婿が決断し、特定の女性を花嫁に選ぶのです。

「あなたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたを選び、あなたを任命したのです。」

(ヨハネ 15:16)

神のことばによれば、花嫁は世界の基が築かれる前から選ばれていました。

れました。

神は、みむねとみころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、

愛をもってあらかじめ定めておられました。」

(エペソ 1:4-5)

神の主権についてはさておいて、(これを取り上げたら、本一冊分になってしまいますから)これらの聖書箇所からわかることは、男性が花嫁を選ぶように、イエスキリストはご自分の花嫁を選んでいるということです。花嫁がだれを花婿にするか決めるのではありません。花婿が決断し、特定の女性を花嫁に選ぶのです。

「あなたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたを選び、あなたを任命したのです。」

(ヨハネ 15:16)

神のことばによれば、花嫁は世界の基が築かれる前から選ばれていました。

「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。

わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」

(ヨハネ 6:44)

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、

神の子どもとされる特権をお与えになった。

この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、

ただ、神によって生まれたのである。」

(ヨハネ 1:12-13)

「神は私たちを世界の基が置かれる前から彼にあって選び、

御前で聖く、傷のない者にしようとさ

そうすれば、賜物として聖霊を受けられるでしょう。

なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、

すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。』」

(使徒の働き 2:38-39)

このことに関して、驚くべき光を放っている別の箇所があります。

「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、

私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。

なぜなら、『木にかけられる者はすべてのろわれたものである』と書いてあるからです。

「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。

わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」

(ヨハネ 6:44)

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、

神の子どもとされる特権をお与えになった。

この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、

ただ、神によって生まれたのである。」

(ヨハネ 1:12-13)

「神は私たちを世界の基が置かれる前から彼にあって選び、

御前で聖く、傷のない者にしようとさ

そうすれば、賜物として聖霊を受けられるでしょう。

なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、

すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。』」

(使徒の働き 2:38-39)

このことに関して、驚くべき光を放っている別の箇所があります。

「キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、

私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。

なぜなら、『木にかけられる者はすべてのろわれたものである』と書いてあるからです。

このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり、

その結果、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるためなのです。」

(ガラテヤ 3:13-14)

さて、「アブラハムに与えられた祝福」にあずかれば、生まれ変りの体験をしたことになるとは決して言えません。それに、「聖霊の約束」と聖霊のバプテスマとは別の出来事です。この聖書箇所はこう伝えているのです、「イエスは十字架にかかって死んでくださいました。イエスの死と復活によって、アブラハムに与えられた祝福が、ユダヤ人から異邦人に移ったのです。これにより、聖霊が異邦人に与えられる道が拓けたのです。」

パウロはどこの箇所でも、「生まれ変わって、それから聖霊で満たされなさい」と言っています。そのことをどうして聖書を学んでいる人たちが、気づかないのか、それを明らかにしましょう。彼らは自分たちの推測に従って、自分たちの解釈を勝手に付け加えているのです。しかし、聖書にはそう書いてありません。イエスもそう言いませんでした。

このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり、

その結果、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるためなのです。」

(ガラテヤ 3:13-14)

さて、「アブラハムに与えられた祝福」にあずかれば、生まれ変りの体験をしたことになるとは決して言えません。それに、「聖霊の約束」と聖霊のバプテスマとは別の出来事です。この聖書箇所はこう伝えているのです、「イエスは十字架にかかって死んでくださいました。イエスの死と復活によって、アブラハムに与えられた祝福が、ユダヤ人から異邦人に移ったのです。これにより、聖霊が異邦人に与えられる道が拓けたのです。」

パウロはどこの箇所でも、「生まれ変わって、それから聖霊で満たされなさい」と言っています。そのことをどうして聖書を学んでいる人たちが、気づかないのか、それを明らかにしましょう。彼らは自分たちの推測に従って、自分たちの解釈を勝手に付け加えているのです。しかし、聖書にはそう書いてありません。イエスもそう言いませんでした。

は神の約束を信じていたのです。カデシュバルネアで、10人のスパイが落胆していたとき、ヨシュアとカレブは動揺せず、「わたしたちはかならず土地を手に入れることができる」と言いました。彼らが、神が語られた「あなたたちにこの土地を与えた。」ということばを信じていたからです。他の者たちは神の力と好意と救いを体験しながらも、安息に入ることができませんでした。この安息は、聖霊のたとえです。ですから、ほんの少数が、神の霊を受けるに至るまで信じ尽くすようになるのです。

あらかじめ定められた神の子達

さらに進めていきましょう。もし感情を害する人がいても、わたしにはどうすることもできません。わたしは神に仕え、神のことばに仕え、神から与えられた人々に仕えています。わたしは神から託された言葉に、忠実でなければなりません。

「父がわたしにお与えになる者は皆、わたしのところにきます。」

そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」

(ヨハネ 6:37)

は神の約束を信じていたのです。カデシュバルネアで、10人のスパイが落胆していたとき、ヨシュアとカレブは動揺せず、「わたしたちはかならず土地を手に入れることができる」と言いました。彼らが、神が語られた「あなたたちにこの土地を与えた。」ということばを信じていたからです。他の者たちは神の力と好意と救いを体験しながらも、安息に入ることができませんでした。この安息は、聖霊のたとえです。ですから、ほんの少数が、神の霊を受けるに至るまで信じ尽くすようになるのです。

あらかじめ定められた神の子達

さらに進めていきましょう。もし感情を害する人がいても、わたしにはどうすることもできません。わたしは神に仕え、神のことばに仕え、神から与えられた人々に仕えています。わたしは神から託された言葉に、忠実でなければなりません。

「父がわたしにお与えになる者は皆、わたしのところにきます。」

そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。」

(ヨハネ 6:37)

て止まってしまう人がいます。信じて洗礼を受ける人々がいます。でもそこで満足して止まってしまう。聖書は信じた時に聖霊を受けるとは言っていません。「信じてから、聖霊を受けましたか?」です。文字通り言うなら、「以前信仰に入ってから、聖霊を受けましたか?」となります。悔い改めて、イエスを信じる信仰に入っただけでは、まだ聖霊を受けていないのです。もっと求め続けて聖霊を受けるのです。理解していただけましたか。ここが原理主義の人たちの間違っている点なのです。彼らの聖霊降臨の理解がじゅうぶんでないため、彼らには力がありません。

彼らは、エジプトを脱出したのに約束の地にたどり着けなかったイスラエルに似ています。エジプトを出たとき、彼らは2百万人超の大群でした。皆で神の奇跡を目の当たりにし、共にマナを食べ、共に岩からほとばしり出た水を飲みました。昼は雲の柱、夜は火の柱に導かれて皆いっしょに旅をしたのです。しかし約束の地にたどり着いたのはたった二人でした。ただ二人だけが真の信者だったのです。聖書に、他の者たちは不信仰のために死んだ、不信仰のために彼らは約束の地に入ることができなかった(ヘブル 3:19)と書いてあるからです。だから、ただ二人だけが約束の地に入り、あとの者たちは真の信者ではなかったこととなります。その二人

て止まってしまう人がいます。信じて洗礼を受ける人々がいます。でもそこで満足して止まってしまう。聖書は信じた時に聖霊を受けるとは言っていません。「信じてから、聖霊を受けましたか?」です。文字通り言うなら、「以前信仰に入ってから、聖霊を受けましたか?」となります。悔い改めて、イエスを信じる信仰に入っただけでは、まだ聖霊を受けていないのです。もっと求め続けて聖霊を受けるのです。理解していただけましたか。ここが原理主義の人たちの間違っている点なのです。彼らの聖霊降臨の理解がじゅうぶんでないため、彼らには力がありません。

彼らは、エジプトを脱出したのに約束の地にたどり着けなかったイスラエルに似ています。エジプトを出たとき、彼らは2百万人超の大群でした。皆で神の奇跡を目の当たりにし、共にマナを食べ、共に岩からほとばしり出た水を飲みました。昼は雲の柱、夜は火の柱に導かれて皆いっしょに旅をしたのです。しかし約束の地にたどり着いたのはたった二人でした。ただ二人だけが真の信者だったのです。聖書に、他の者たちは不信仰のために死んだ、不信仰のために彼らは約束の地に入ることができなかった(ヘブル 3:19)と書いてあるからです。だから、ただ二人だけが約束の地に入り、あとの者たちは真の信者ではなかったこととなります。その二人

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。

『誰でも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。

わたしを信じる者は、聖書が言うように、

その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。』

これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。

イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」

(ヨハネ 7:37-39)

おわかりになりましたか。信じる者がイエスのもとに来て飲むと、後になってイエスから注がれる生きた水の川を受けると、強調して書かれています。その時期は五旬祭まで待たなければなりません。さて、この

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。

『誰でも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。

わたしを信じる者は、聖書が言うように、

その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。』

これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。

イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」

(ヨハネ 7:37-39)

おわかりになりましたか。信じる者がイエスのもとに来て飲むと、後になってイエスから注がれる生きた水の川を受けると、強調して書かれています。その時期は五旬祭まで待たなければなりません。さて、この

ことを念頭において、次の箇所を読んでみましょう。

「もしあなたが神の賜物を知り、

また、あなたに水を飲ませてくれと言
う者が誰であるかを知っていたなら、

あなたのほうでその人に求めたでし
よう。

そしてその人はあなたに生ける水を
与えたことでしょう。」

(ヨハネ 4:10)

「しかし、わたしが与える水を飲む者
はだれでも、決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人のうちで
泉となり、永遠のいのちへの水がわき出
します。」

(ヨハネ 4:14)

同じ生ける水について語られています。しかしこの

場合は、川でなくて泉です。ここでつまりく人があるの
です。川と泉は別ものだと考えてしまうのです。ひとつ
は聖霊によって与えられる永遠のいのちのことで、川の
ほうは、そのちから強さから、御霊による力の賦与であ
ると、このように区別してしまっています。でもそうでは
ありません。どちらも同じ、ひとつのものです。それはい
のちと力を与える御霊のことで、聖霊降臨の時に注が
れたのです。

どうしてこのような誤解が生じるのでしょうか？ 答え
は「経験」です。経験に頼って、みことばに頼っていない
からです。経験を自分の物差しにしていると、真実から
離れてしまいます。基軸はただひとつ、みことばです。も
う一度、注意深く、読んでください。ペテロは、「悔い改
めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、
イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。
そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」と言
いました。そしてパウロは、「信じてから、聖霊を受けまし
か?」と尋ねました。ここに問題のすべてがあるのです。
人々はそれぞれの罪を悔い改めます。そして水で洗礼
を受けます。しかしそれで終わりではないのです。それ
だけではまだ聖霊を受けていないのです。信じ続けて
聖霊を受けるのです。イエスを信じることは、聖霊を受
けるための大切なステップです。でもそれだけで満足し

ことを念頭において、次の箇所を読んでみましょう。

「もしあなたが神の賜物を知り、

また、あなたに水を飲ませてくれと言
う者が誰であるかを知っていたなら、

あなたのほうでその人に求めたでし
よう。

そしてその人はあなたに生ける水を
与えたことでしょう。」

(ヨハネ 4:10)

「しかし、わたしが与える水を飲む者
はだれでも、決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人のうちで
泉となり、永遠のいのちへの水がわき出
します。」

(ヨハネ 4:14)

同じ生ける水について語られています。しかしこの

場合は、川でなくて泉です。ここでつまりく人があるの
です。川と泉は別ものだと考えてしまうのです。ひとつ
は聖霊によって与えられる永遠のいのちのことで、川の
ほうは、そのちから強さから、御霊による力の賦与であ
ると、このように区別してしまっています。でもそうでは
ありません。どちらも同じ、ひとつのものです。それはい
のちと力を与える御霊のことで、聖霊降臨の時に注が
れたのです。

どうしてこのような誤解が生じるのでしょうか？ 答え
は「経験」です。経験に頼って、みことばに頼っていない
からです。経験を自分の物差しにしていると、真実から
離れてしまいます。基軸はただひとつ、みことばです。も
う一度、注意深く、読んでください。ペテロは、「悔い改
めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、
イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。
そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」と言
いました。そしてパウロは、「信じてから、聖霊を受けまし
か?」と尋ねました。ここに問題のすべてがあるのです。
人々はそれぞれの罪を悔い改めます。そして水で洗礼
を受けます。しかしそれで終わりではないのです。それ
だけではまだ聖霊を受けていないのです。信じ続けて
聖霊を受けるのです。イエスを信じることは、聖霊を受
けるための大切なステップです。でもそれだけで満足し